若手歯科医師のための
海外留学指南

編：北川　昇　萩原芳幸

一般財団法人　口腔保健協会

石部　元朗

（ワシントン大学 Affiliate Assistant Professor／山梨県甲府市開業）

留学・研修先：

ワシントン州シアトル　ワシントン大学大学院（補綴学専攻）

歯科用セラミックスに関する研究：“Shear bond strengths of pressed and layered veneering ceramics to high-noble alloy and zirconia cores.”

留学・研修先期間：

2005 年 6 月入学

2009 年 8 月専門課程修了

2010 年 6 月大学院卒業

留学までの準備状況：

1. ワシントン大学補綴大学院を見学したことがきっかけとなり，同大学院への進学を決意．出願までの間に数回訪問，見学し，先方から必要事項などの説明を直接受けたり，出願要項を入手したりしました．
2. TOEFL 580 点および GRE 受験が必須であったために，日本で海外進学専門予備校（Kaplan や Princeton Review）に通い準備しました．
3. TOEFL および GRE のスコア，出身校の成績証明，推薦状，各種質問事項への回答

留学を志した動機・時期・期間：2001 年にプログラムを見学させていただく機会を得ました．様々な経歴をもつ世界各国出身の歯科医師が集まり，研究だけでなく臨床に従事している光景がとても新鮮であり，衝撃を受けました．時期は 28 歳（卒後 5 年目）口腔外科退局直後．期間は決意してから合格するまでに約 3 年の準備期間を要しました．その間，仕事，結婚もあったので，長時間を要したことはやむを得なかったように思います．語学試験では，必要なスコアを獲得するまでに 1 年以上を要しましたが，スコアを獲得することは最優先事項であり，それをクリアしないとさらに先にある必要書類作成，面接や実技試験対策などに進めません．裏を返せば，語学試験がままならないうちは，それらを理解することも難しいので，まず語学試験をクリアすることが大切だと思います．